

**文庫あれこれ**◆今日 6月7日、関東まで一斉に梅雨入りとか。しばらく鬱陶しい日が続くのでしょうか。文庫の庭では、白いアナベルが咲いていました。猫の額の東京の家の庭でも、額紫陽花が咲き始めました。◆Nさんのリクエストで今月



入れた『蘇我の娘の古事記(ふることぶみ)』(表紙の絵)に始まり、好きなイギリスの作家ロザムンド・ビルチャーの本、子どもの本数冊と、いつになく読書づいてます。あと、まだ何冊か欲張って文庫から借りてきたのですが、文庫に行くまでの1週間外出することが多く、読めるかなあ、というところ。◆『蘇我の娘』は、文庫の皆さんは、どう読まれますか…、今度伺ってみたいと思います。私の感想はちょっと単純ではないかな。でも日本の古代を舞台にした物語はもっともっと読みたいですね。Nさん、先に読んでごめんなさい。◆またまた別の孫娘の中学校の合唱祭に、仕事を休めない娘の代わりに行ってきました。若い子どもたちの素直な歌声はいつ聞いてもいいものです。◆今年の「海の日のおはなし会」では、いつものデューオでなく、この地のコースの方々(文庫のスタッフ&会員です)に歌っていただきます。それだけでも聴きまきてくださいね。(そしておはなしも)◆この頃、昔読んだ、読もうと思っ

## 2017 文庫開館日のお知らせ

★開館日は通常は  
第3日曜と前日の土曜です★

◆6月は通常17日(土)、18日(日)の両日  
◆7月は通常15日(土)、16日(日)の両日と  
16日 16:30~19:00 (於:伊豆高原駅広場)

「第17回海の日のおはなし会」

17日 10:30~12:00 (於:沙羅の樹文庫)

「第11回開館記念子どものためのおはなし会」

◆8月はちょっと長めの開館  
17日(木)~20日(日)

◆9月は通常16日(土)、17日(日)の両日

◆10月は変則21日(土)、22日(日)第4週

◆11月は通常18日(土)、19日(日)の両日

◆12月も通常16日(土)、17日(日)の両日

文庫の時間

土曜日は 14:00~17:00

日曜日は 10:00~15:00

★毎月開館日の日曜には、10:30~11:45

子どものための小さなおはなし会があります。

★おはなし沙羅の勉強会

毎月開館土曜日 11:00~13:00

よみかかせの練習・本選びの勉強にもどうぞ!



駐車について

ご面倒かけます。駐車場  
所がない場合はスタッ  
フにお尋ねください。  
ご協力お願いします。  
沙羅の樹文庫

沙羅の樹文庫 0557-51-3737

<http://www.saranokibunko>

## 沙羅の樹文庫だより



うれしい

ぼくが、うれしいを  
みたことがないと  
いったら、  
おじいちゃんとおばあちゃんが  
ひゃくさいまでいき  
しんだら  
でてあげるわといった。  
とてもたのしみだ。

いけながともき作(1983年当時小1  
「ことばのしっぽ」『こどもの詩』50周年精選集)から

冒頭から繰起でもない?!

いいえ、なんて嬉しい会話でしょうか。  
あの世にいつからか楽しみがあります!!

## 2017年6月に読んだ本についての感想

2017.6.15 by 森林浴

『夜の歌』(なかにし礼著 毎日新聞出版 2017.4 第3版)

459頁に亘る有名な作詞家の過酷で華麗な人生記録。著者は1938年生まれだから、今満79歳の筈。読み終えて、うーんと唸って、しばらく茫然と考え込まれるような波乱万丈の人生だ。

彼を襲った試練は、①満州で生まれて順調な子供時代だったが、満州国崩壊後の大混乱で一家が惨憺たる苦勞、父親は死亡、母と姉2人とともに生き延びて母国に帰ったが、父親の実家では歓迎されなかった。②大学でフランス語を学んだなかにしはフランスのジャンソンの翻訳を業にしていたが、石原裕次郎のヒントもあって日本語の歌の作詞に転じて大ヒット。売れっ子になって莫大な富を手に入れた。③ところが兄が勝手に彼の実印を持ち出して、事業に投資して大失敗を続け、その借金の取り立てに追い回される。④流行作詞家として夜昼なく活躍して不健康な生活をつづけた報いか、心臓を病み、遂には食道がんに襲われる。現在も癌の治療中。結構凝った小説で、ゴーストと称する幽霊が出てきて、舞台回しを演じている。2000年に「長崎ぶらぶら節」で直木賞を取った彼は文才もなかなかのものようだ。

『橋本治と内田樹』(橋本治・内田樹著 筑摩書房 2008.11 第1版)

この本はどなたかの寄贈本。今から言えば9年前に出た奇妙な本で、本の名前と著者名が全く同一、二人の対談を仕組んだのは筑摩書房だ。私の頭の中では、実は内田氏が先輩で、橋本氏が後輩だったが、実は逆で、橋本治が私の記憶の中で、いつまでも東大駒場祭で「とめてくれるおっかん 背中の銀杏が泣いている 男東大どこへ行く」という奇妙なポスターを描いた奇妙な男のままで止まっており、年を取っていないかったものらしい。つまり内田樹の本はときどき読んでいたが、橋本治の本は全く読んでいなかったということ。

この本を読んでみると、割と独自性があると思っていた内田より橋本の方がはるかにユニークで柔軟で面白い人物のようだ。

伊豆・高原・だより 外伝



みえるでしょうか。

5月半ばに夫さんが那国島への飛行機の中  
から揺った上:西表島イダの浜

下:石垣島西の離島

与那国島には、独特の馬が見て、晴れた日には、遥かにかすかに台湾が見えるそうぞう。土地の民謡と踊りがすばらしかったとか。



## パレエ物語集を読んで

『パレエ物語』(ジェラルディン・マコックラン 作 偕成社 2016)を読みました。この本は、「白鳥の湖」や、「くるみわり人形」など、パレエ作品の物語を10こ集めたものです。たくさんのお話を1冊にまとめているので、物語がとちからというのがありますが、大事なところはいいに書かれているので、話の内容はよくわかります。また、それぞれのお話の最初に、今、どんな場面なのか、と、登場人物が書かれているので、もっとわかりやすくなっています。

お話は色々ありますが、わたしが読んで気に入ったのは、シンデレラです。シンデレラは、お姉さんたちが、ぶとう会に行くじゅんびを、シンデレラにさせているところから始まります。シンデレラのお話は、みなさん知っていると思いますが、少しかえてあつたりして(パレエに向くようにかしたら)、そこがおもしろいです。



わたしはパレエを習っているの、知ってお話がたくさんありました。ですが、どれも大まかにしか知らなかったことに気がつきました。この本には、悲しい話、おもしろい話、感動する話がたくさんあるので、みなさんも、パレエを見るようにひとつひとつのお話を楽しんでください。

水野空奈(世田谷区立桜丘小学校5年)

## 17年6月に入った子どもの本

### 絵本

『ちいさなかえるくん』(甲斐信枝さく 福音館書店) ID12459

『こわがりのかえるぼうや』(キティ・クローザー作 平岡敦訳 徳間書店) ID12462

『せいめいのれきしー地球上にせいめいがうまれたときからいままでのおはなし 改訂版』(バージニア・リー・パートン文 岩波書店 2015) ID12454

『深読み! 絵本くせいめいのれきし』(真鍋真著 岩波書店 2017) ID12455※おとうさんの出番。これ読んで、子どもと絵本を楽しんでください。

★パートンの『せいめいのれきし』、今50歳になる息子に買ってあげたのはいつだったでしょうか。妹たち、そして廻り回って上の孫たちまで楽しみました。そして、今回、父の名前(持ち主として)の書かれたH. A. レイの『星座を見つけてよう』と共に、この改訂版を台湾にいる息子の息子たちへ送ってやろうと思っています。



『シャエの女王』(横佐和子文 赤羽末吉絵 偕成社) ID12460

※胸を打つ物語です。おうちでは心を静かにして読み聞かせてあげてください。学校では、少し長いけど高学年のクラスで。

### よみもの

『天狗ノオト』(田中彩子作 理論社) ID12458  
※request

★6年生4人組が天狗にあう?! 不思議だけど爽やかで懐かしい日本の風土文化を感じます。同著者の『石の神』も読んでみて!!

『バレエ物語集—あこがれの代表作10』(ジェラルディン・マコックラン著 井辻朱美訳 偕成社 2016) ID12414※バレエを習っているRちゃん、Sちゃんいかが?

### 詩

『ことばのしっぽ『こどもの詩』50周年選集』(読売新聞生活部監修 中央公論新社 2017) ID12457※request

### ノンフィクションほか

『ナピラとマララ「対テロ戦争」に巻き込まれた二人の少女』(宮田律著 講談社 2017) ID12456

★ナピラを知っていますか?  
『14歳からの哲学—考えるための教科書』(池田晶子著 トランスビュー) ID00010※ふと行き詰ったら立ち止まって考えてみよう。

### 参考図書

『物語の森へ—児童図書館基本図書目録2』(東京子ども図書館編 東京子ども図書館 2017) ID12461

※やはり東京子ども図書館から2012年に『**絵本の森へ(児童図書館基本図書目録1)**』が出ていて、文庫在。この2冊のリストにあるものは、公共図書館に揃えて、子どもたちが、子ども時代にぜひとも味わってほしい本として、専門家の目で選んだ本たちです。文庫にはないものもありますが、requestしてくだされば、余程高価でなければ購入します。]

## 広瀬おばさんからの寄贈(2017 続)

### 絵本

『小さなサンと天の竜』(チェン・ジャンホン作 平岡敦訳 徳間書店) ID12438

『雨二モマケズ』(宮沢賢治詩 松成真理子絵 あすなろ書房) ID12413

『マララの物語』(レベッカ・L・ジョージ文 ジョアンナ・ボック絵 西田佳子訳 西村書店) ID12436

『だれかな?だれかな?』(とよたかずひこ作 アリス館) ID12432 『なにたべているのかな?』(とよたかずひこ作 アリス館) ID12433

『みかんのめいさんち』(平田昌広作 平田景絵 すずき出版) ID12431 『びつつんつん』(もろかおり絵 鹿鹿悦子文 くもん出版) ID12430

『ゴリラのとうちゃん』(三浦太郎作 こぐま社) ID12429 『ハナミズキの道』(浅沼

ミキ子文 黒井健絵 金の星社) ID12428

『げんきにおでかけ』(五味太郎作 童心社) ID12427 『きょうのおやつはなんだろう?』(ふじもとのりこ作 すすき出版) ID12426

『かあかあ』(丹治匠さく こぐま社) ID12425 『きょうはたんじょうび』(中川ひろたか文 村上康成絵 童心社) ID12424

### よみもの

『ゆず先生は忘れない』(白矢三恵作 くもん出版) ID12421

『ぼくのひかり色の絵の具』(西村すぐり作 ポプラ社) ID12420

『晴れるのゆくえ』(中川なをみ作 文化出版局) ID12416

『夢見る犬たち—五番犬舎の軌跡』(クリフ・マクニッシュ作 浜田かつこ訳 金の星社) ID12417

## 17年6月に入った本

### フィクション

『蘇我の娘の古事記』(周防柳著 角川春樹事務所 2017) ID17064※request

『カプールの園』(宮内悠介著 文藝春秋 2017) ID17066※第30回三島由紀夫賞受賞

『夜の谷を行く』(桐野夏生著 文藝春秋 2017) ID17067

『月の満ち欠け』(佐藤正午著 岩波書店 2017) ID17070※request

『出会いなおし』(森絵都著 文藝春秋 2017) ID17076

『星に願いを、そして手を。』(青羽悠著 集英社 2017) ID17074

『明るい夜に出かけて』(佐藤多佳子著 新潮社 2016) ID17067※第30回山本周五郎賞受賞

『血縁』(永岡弘樹著 集英社 2017) ID17071

『アトミック・ボックス』(池澤夏樹著 毎日新聞社 2014) ID17071

『キトラ・ボックス』(池澤夏樹著 角川書店 2017) ID17072

『室町無頼』(垣根涼介著 新潮社 2016) ID17068

『伊豆文学賞 優秀作品集 第20回』(伊豆文学フェスティバル編集委員会編 羽衣出版 2017) ID17075※request

『私の名前はルーシー・パートン』(エリザベス・ストラウト著 早川書房 2017) ID17080

『スコットランドの早春』(ロザムンド・ビルチャー著 中村妙子訳 日向房) ID17083

『コーンワルの夏』(ロザムンド・ビルチャー著 中村妙子訳 日向房) ID17084

### エッセイほか

『いつか別れる。でもそれは今日ではない』(F著 角川書店 2017) ID17065

『夫・車谷長吉』(高橋順子著 文藝春秋 2017) ID17077

『暗い時代の人々』(森まゆみ著 亜紀書 2017) ID17078

『百年の散歩』(多和田葉子著 新潮社 2017) ID17081

『あるかしら書店』(ヨシタケシンスケ著 ポプラ社 2017) ID17089

『戦後歌舞伎の精神史』(渡辺保著 講談社 2017) ID17079

『絶望を生きる哲学—池田晶子の言葉』(池田晶子著 NPO わたくし、つまり Nobody 編 講談社 2017) ID17090

『嵐を呼ぶ少女とよばれて—市民活動という生き方』(菱山南帆子著 はるか書房) ID17091

『共謀罪とは何か』(海渡雄一、保坂展人著 岩波ブックレット) ID17092※知った名前だと思ったら、著者の一人は我が住む世田谷の区長。

### 文庫

『フランク『夜と霧』への旅』(河原理子著 朝日文庫 2017) ID17082

『女流阿房列車』(酒井順子著 新潮文庫) ID17085

『哀しいだけ 欣救浄土』(藤枝静男著 講談社文芸文庫) ID17086

『風花病棟』(帯木蓮生著 新潮文庫) ID17087

### 寄贈・単行本

『遠い唇』(北村薫著 角川書店 2016) ID17063

『雑談・衣食住』(永井龍男著 講談社) ID9709

### 寄贈・文庫

『アメリカン・スナイパー』(クリス・カイルほか著 ハヤカワ文庫) ID9705

『嫁入り(鎌倉河岸捕物控 30の巻)』(佐伯泰英著 ハルキ文庫) ID9699

『旅立ちぬ—吉原裏同心抄』(佐伯泰英著 光文社文庫) ID9700

『大晦り(酔いどれ小藤次7)』(佐伯泰英著 文春文庫) ID9710

『猫除け—古道具屋皆塵堂』(輪渡颯介著 講談社文庫) ID9707

『湿地帯』(宮尾登美子著 新潮文庫) ID9706

『楠木正成 上・下』(北方謙三著 中公文庫) ID9701、2

『四季・布由子 上・下』(五木寛之著 集英社文庫) ID9703、4

『古典落語 上・下』(興津要編 講談社文庫) ID9711、2



上の2冊の作家は児童書から出発しています。